

科目名	現代社会と法B Modern Society and Law B						
科目担当者	雨宮 敬博 AMAMIYA Takahiro						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [総合教育科目 人間形成] 経営学部・経営学科 [総合教育科目 人間形成]					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	初回の授業の際に、どのような分野・項目についての関心が特に高いかのアンケートをとり、受講生の希望を最大限尊重しながら講義を進めていく。素案として示す「授業計画・内容」をも参考にしつつ、どのような分野・項目を重点的に学びたいかについて開講時までに検討しておくこと。						
授業の到達目標	①自分達の生活に身近な題材を通して現代社会と法とのかかわりについて興味をもって学んでいくことにより、法を身近なものとしてとらえることができるようになる。						
授業計画・内容	1	オリエンテーション（概要説明、アンケート）					
	2	刑罰と法（懲役刑、禁錮刑、罰金刑など）					
	3	犯罪と法（未遂、共犯など）					
	4	犯罪と法（窃盗罪、強盗罪、詐欺罪など）					
	5	経済活動と法（企業の違法行為に対する法的規制など）					
	6	労働と法（産前産後休業、育児時間など）					
	7	社会保障と法（生活保護制度など）					
	8	医療と法（医療過誤に伴う法的責任など）					
	9	財産と法（契約、不法行為など）					
	10	家族と法（親子関係、親権など）					
	11	家族と法（相続、遺言など）					
	12	基本的人権の保障（生存権、教育を受ける権利、労働基本権など）					
	13	国と地方公共団体（財政、地方自治など）					
	14	法解釈の方法（文理解釈、拡大解釈、縮小解釈、反対解釈など）					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	ふだんから新聞等で事件や事故のニュースを読んでおく。 次回授業のプリントが配付済みの場合は、事前に目を通しておく。(毎回1時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	授業の際に配付する資料のプリントを読むとともに、演習問題のプリントを復習する。(毎回3時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	定期試験				100%	①	
成績評価基準	秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	なし						
参考文献	必要に応じて紹介						
その他	携帯・スマホ等の閲覧・操作や露骨な途中退出は、絶対にしないこと。						